

## 文字の運びと流れ

萩原 義雄

## カタカナ表記資料について

カタカナを用いることは、漢文訓読のときに起因していることを既に学習してきました。今回は、漢文の傍らに添えられるカタカナ表記、すなわち漢文訓読のカタカナ文字から、れっきとした本文の表記体として用いられるようになった文献資料を許に検討をしていくことにします。

まず、本文をカタカナ書きとした文献資料の一つを眺望しておきましょう。

宮内庁書陵部藏『古今和歌集』舊伏見宮舊藏、建永元年(一一〇六)書写本。清輔本系注記「以貫之自筆本書寫古今也。件本、於皇太后宮焼失畢云々。和歌等不似餘本其説頗遠矣。通宗」を記載する。

用語数二〇七二語、延べ語数一八〇八八語

仮名序「…トヨリソ、オコリケル。チハヤフル神ヨニハ、ウタハモシモサタマラス、ス、ナホニテ、コトノコ、ロワキカタカリケラシ。人ノヨトナリテヨリソ、スサノヲノニコトヨリソ、ミノモシアマリ、ヒトモシハヨミケル。《略》ナニハツニサクヤコノハナフユモリ、イマ、ルヘトサクヤコノハナ《下略》」  
とある資料です。

ここでは、歌の本文内容はともかくとして、歌作者名の書記法について考察してみますと、その多くが「ツラユキ」「モトカタ」「トモノリ」「ミツネ」「タ、ミネ」「シロメ」などと名前だけをすべてカタカナ書きしたものと、「キセンホフシ」「ソセイホウシ」「シセイホウシ」「ケムケイホウシ」などの僧名にもすべてカタカナ書きしたものが見られます。

「フムヤノアサヤス」「キノヨシモチ」「アリハラノモトカタ」「サカノウヘノコレノリ」「タヒラノサタフム」「フチハラノセキヲ」「カネミノオホキミ」「キヨハラノフカヤフ」「ハルミチノツラキ」「キノツラユキ」「キノアキミネ」「キノコレヲカ」「キノトシサタ」「イカコノアツユキ」「ナニハノヨロツヲ」「ヨシミネノヒテヲカ」「フチハラノカネモチ」「タヒラノトモノリ」「キノアリツネ」「ヤタヘノナサネ」「フムヤノヤスヒテ」「タカムコノトシハル」「ミナモトノホトコス」「ミヤコノヨシカ」「ヲノ、ヨシキ」「ミハルノアリスケ」「タチハナノキヨキ」「シモツケノフムネ」「オホトモノクロヌシ」「コレタカノミコ」「フルノイマミチ」「モノ、ヘノヨシナ」「サタノ、ホル」「カネミノオホキミ」「ヲノ、サタキ」「カケノリノオホキミ」「カムツネノミネヲ」「ミハルノアリスケ」「ヲノ、ハルカセ」「フムヤノアリスケ」「キノヨシヒト」「タヒラノナカキ」や女性の歌作者名も「ミフノマシナリカムスメ」「イセ」「コマチカアネ」「イナハ」「ミチノク」「キノメノト」

などと凡てがカタカナで書かれている作者名が大半を占めています。

そうしたなか、漢字表記で書かれた名前もあります。次に挙げる「僧正遍照」は、僧職名の「僧正」を漢字で書き、僧名の「へせう」をカタカナで、二種表記した書きぶりをみるることができます。

「僧正遍照」「僧正へせう」「へせう」の三表記

394

392

330 「清原深養父」

清原深養父

859 577

大江千サト

467

大江千里

「大江千里」

1016 847

僧正通照

831 770

僧正通照  
三ノ儿  
僧都勝運

468 348 347

僧正通照

書詞

435

僧正つせら

378

フカヤフ

1021

フカヤフ

967

581

998 643

千サト

1065

オチエノ千サト

大工ノ千里

「菅原朝臣」：「菅原道真」の歌であるが、二首とも「道真」の名前を未記載にする。名前を明記しないことに書記者の道真に対する扱い方が見えている。

420 菅原朝臣

272 菅原朝臣

「素性法師」

470 素性法師

555 素性法師

「紀貫之」

471 紀貫之

475 貫之

572 紀ノヲキ

貫之

482 紀ノヲキ

貫之

851 紀ノヲキ

「在原元方」

473 在原元方

1062 在原元方

630 在原ノモトカタ

「小野小町」

552 小野小町

557 コニキ

623 シノコニキ

938 シノコニキ

1030 シノコニキ

「寵」

「寵」※女房名「内蔵」の字を一字にて誤記かという。詞書きの「藤原ノキムトシニヨミテツカハシケル男の名と自らの名を詠み込んだ技法歌と見たときくさま

376 寵

640 寵

742 寵

くらの「くら」を織り込んだとみる。アサナケニミヘキミトシタノマネハオモヒタチヌルクサマヲナリ

455 「兵衛」↓「惟房がもとにかへりける」「藤原たかつね朝臣女」  
兵衛 夕夕フサカモト  
ニツリカ

740 「閑院」  
用院 837 用院

「読人不知」※御本人名皆假名也 ↓多くは「ヨミ人シラス」と記載する。この他として、漢字表記とカタカナ表記で記載する例を見る。

469 読人不知  
940 読人不知  
933 読人不知

1001 読人不知  
910 読人不知  
647 読人不知  
同上假名也

1057 ヲミヒトシラス  
1052 ヲミヒトシラス  
1037 ヲミヒトシラス

1068 ヲミヒトシラス  
1066 ヲミヒトシラス  
1063 ヲミヒトシラス

1043 ヲミ人シラス

在原ノナリヒラヒ

アリハナリヒラヒ

410 在原ノナリヒラヒ  
476 在原ナリヒラヒ  
616 在原ナリヒラヒ

418 ナリヒラヒ  
618 ナリヒラヒ  
622 ナリヒラヒ  
642 ナリヒラヒ

また、姓を漢字表記し、名前をカタカナで表記するものもあります。

「在原業平」

329 「凡河内躬恒」※「ヲフシカウチノミツネ」と「オフシカウチノミツネ」と両用表記。

凡河内三子

481

シラカウチノ三子

788 源ノム子ノ朝

624 源ノム子ノ朝

315 源ノム子ノ朝

「源宗子」

212 藤原ノム子ノ朝

「藤原管根」

1100 1013

藤原ノム子ノ朝  
藤原ノム子ノ朝

「藤原敏行」  
藤原ノム子ノ朝

012 「源正純」  
源ノム子ノ朝

010 「藤原言直」  
藤原ノム子ノ朝

801  
ム子ノ朝

617 藤原ノム子ノ朝  
558 藤原ノム子ノ朝  
422 藤原ノム子ノ朝

969 源ノム子ノ朝  
785 ナリヒラノ朝  
646 ナリヒラノ朝

1014 391

「藤原兼輔」

藤原ノカ子スケ

藤原ノカ子スケ

364

「典侍藤原ヨルカ」

オウシカ子ノヨルカ朝

※官職名「典侍」をカタカナ表記し、姓「藤原」を漢字表記し、名前をカタカナ表記する。

オウシカ子ノヨルカ朝

736

355

「在原シゲハル」また、「トキハル」

在原ノシゲハル

372

在原ノシゲハル

610

341 「春道列樹」

春ミチノツキ

春ミチノツキ

335 「小野篁」

小野ノカミウラノ朝

840

750

636

382

元河内ミコ子

元河内ミコ子

元河内ミコ子

元河内ミコ子

829

シノカミウラノ朝

956

元河内ミコ子

1015

オウシカ子ノミコ子

1005

オウシカ子ノミコ子

藤原ノカ子スケ

417

シノカミウラノ朝

961

シノカミウラノ朝

936

シノカミウラノ朝

845

393 「幽仙」※「律師」の表記を促音無表記で「リシ」と記載する。

395 へら仙りし

「安倍仲麻呂」

406 女倍十力丁口

※訓みかただが、「あべなまろ」と準体助詞の「下に表記しない体裁であるが、読むときは「あべのなまろ」と読む。

「藤原勝臣」

472 藤原カチオム

999 藤原ノカチオム

「藤原忠房」

576 藤原ノタムフ丹

914 藤原ノタムフ丹

993

藤原ノタムフ丹

638

藤原ノタムフ丹

「近院おほいまうちきみ」

737 近院分ままらキミ

848

近院分ままらキミ

「雲林院ノミヨ」

781 雲林院ノミヨ

「藤原なほい」

807 ナホイノミヨ

「尼敬信」↓「よるか朝臣の母」

885 尼敬信

「在原行平」

922 在原ノミヨ

962

在原ノミヨ

「神タイ法師」

925

神タリオウシ

927  
「橘」

藤原ノオカサ

930  
「三條の町」↓「惟喬皇子の母」

三條ノニキ  
ミツノカ

932  
「坂上是則」

坂上ノミチノリ

986  
「二条」↓「源ノイタルノ朝臣ノムスメ」

二条ノムスメ  
源ノイタルノ朝臣ノ

「在原むねやな」

1020

在原ノムネヤナ

これとは反対に姓をカタカナ表記し、名前を漢字表記する「フチハラノ興風」といった表記もあります。「興風」は、他に「オキ風」「オキカセ」「興風」といった表記も見えています。また、「キ」のカタカナ表記には、「キ」と「ノ」の両用表記が見えています。姓名で表記する場合、「藤原オキカゼ」と記載するのと「藤原ノオキカゼ」と準体助詞「の」を添える表記とが見えています。「オキカゼ」の「かぜ」を「風」と漢字表記する例も見えています。

「藤原興風」

フチハラノ興風

326

藤原オキカセ

351

藤原オキカセ

567

藤原オキカセ

814

藤原オキカセ

909

藤原オキカセ

745

オキカセ

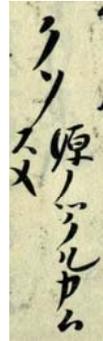
オキカセ

オキカセ

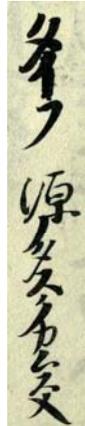
1053 藤原千代

1064 興川

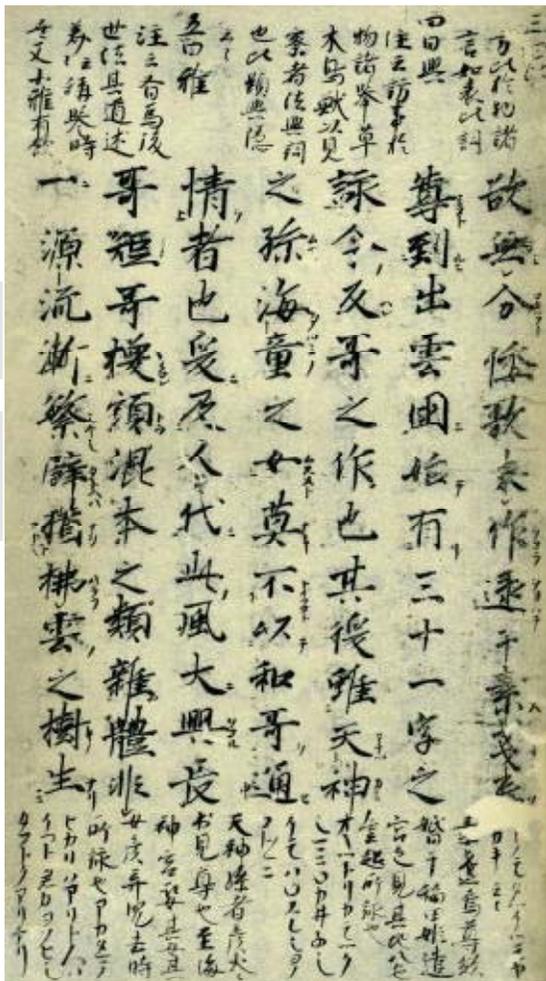
女房名はおおよそ、カタカナで表記され、その下に割書きにて素性を父方の名を以て記載する。

1054 「クソ」↓「源のつくるが女」  


1055 「さぬき」↓「安倍清行朝臣女」  


1056 「大輔」↓「源のタスクが女」  


以上、カタカナ本『古今和歌集』作者名の表記事例を眺めてきました。この和歌集には、紀淑望の作「真名序」があり、漢字の傍らに添えるカタカナ表記を確認することができます。三葉めの箇所を取り上げておきます。是非、お読みになってください。



『重之集』『伊勢集』『大内記』『醍醐御集』『後撰集』『遍照集』『兼輔集』『江家次第』『敏行集』『藤六輔集』『神楽譜』など。

この資料には、天地に書き込み注記がなされ、この箇所を丹念に読むことで、『古今和歌集』がどのような資料と関連しているのかを知り得ます。因みに、書込の典拠名をメモしてみます。『古語拾遺』『日本皇代記』『万葉集』『拾遺集』『大和物語』『猿丸集』『三十六人集』『金玉集』『深忘集』『伊勢物語』『新撰朗詠集』『素性集』『興風集』『家持集』『躬恒集』『朗詠集江注』『人丸集』『貫之集』『菅家万葉集』『千里集』